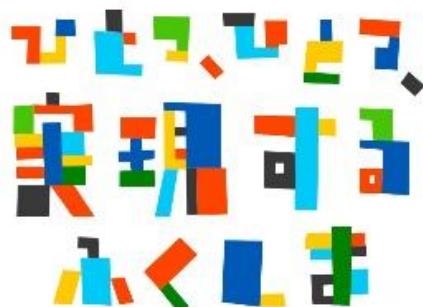


福島県の事例

— 福島県における 「夏黄金」栽培のポイント —

令和8年1月22日
国産小麦セミナー

福島県農業総合センター
作物園芸部 畑作科

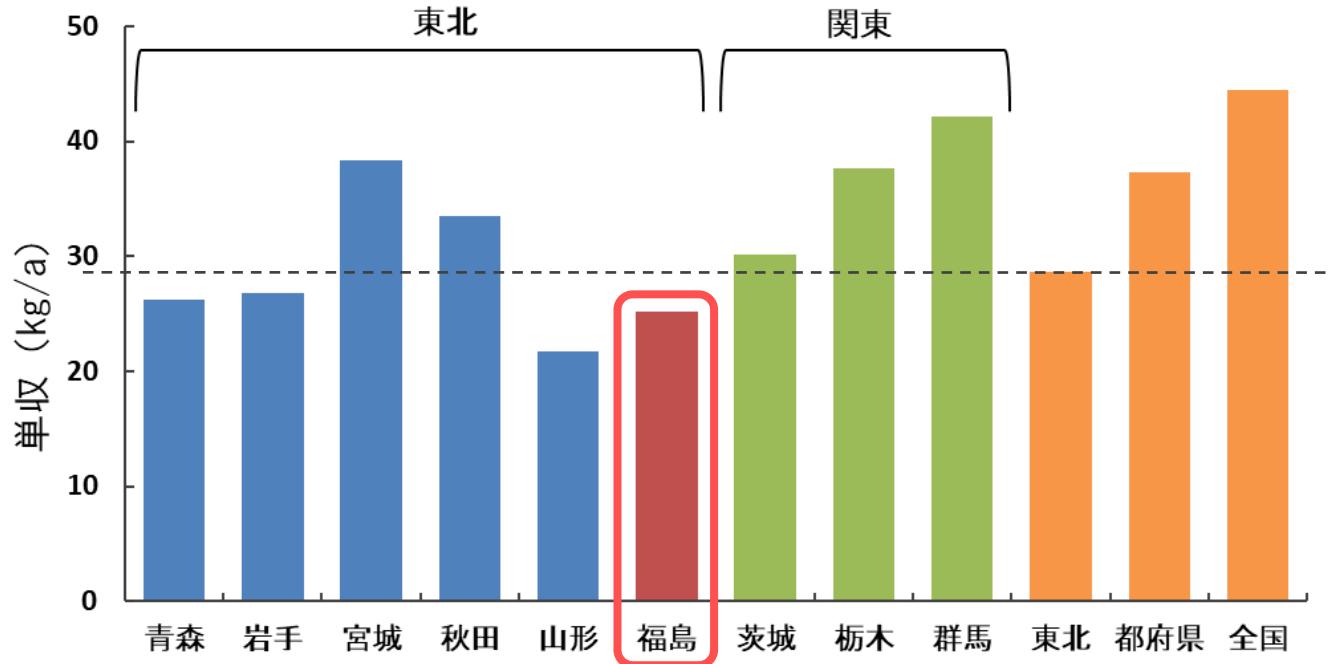


本日の内容

- 1 県内の麦作の現状
- 2 「夏黄金」ってどんな品種？
- 3 栽培のポイント
 - ・ 基本的な管理
 - ・ 播種時期・播種量
 - ・ 生育状況
 - ・ 収穫適期
 - 積算気温との関係、外観の変化、品質
 - ・ 省力施肥栽培(参考)
- 4 今後の予定
 - ・ 「夏黄金」栽培暦の作成について

県内の麦作の現状

- 浜通りを中心に小麦の作付面積が拡大中
- 水田における土地利用型作物として、小麦の位置づけは今後さらに高まる見込み
- 平均単収は他県と比べて高いとはいえない



※農林水産省「作物統計（令和7年産）」より作図

県内の麦作の現状

表 小麦の品種別作付面積（単位：ha）

品種	R5年産 面積	R6年産 面積	R7年産 面積	R8年産 面積
きぬあずま	141	120	128	97
ゆきちから	211	247	226	244
さとのそら	89	99	131	142
夏黄金	-	-	3	6
その他	8	3	-	-
計	448	468	488	489

注) 全農福島の出荷契約ベースの面積

「夏黄金」ってどんな品種？

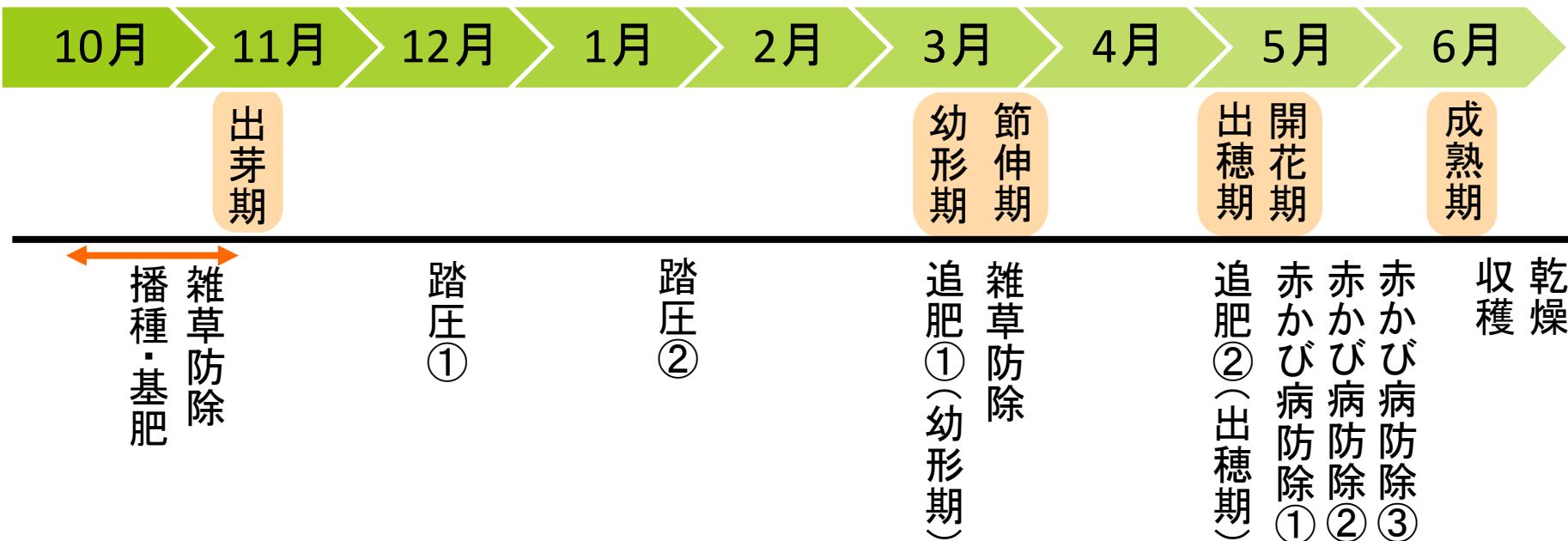
- ・農研機構が育成したパンや中華麺に向く品種
- ・穂発芽性「難」
- ・病害抵抗性
　縞萎縮病「強」、赤かび病・うどんこ病・赤さび病「中」
- ・穂の色が赤褐色
- ・本県の奨励品種（令和7年2月に採用）
- ・本県では令和7年産より産地品種銘柄に指定



夏黄金

ゆきちから

栽培のポイント～基本的な管理～



【基本管理】

- ・播種時期：10月中旬～11月上旬（晩限：11月中旬）
- ・播種量：0.6～0.8 kg/a
(参考 他品種の播種量：0.8～1.0kg/a)
- ・施肥量(窒素)：基肥 1.0 kg/a
追肥①(幼穂形成期) 0.3 kg/a
追肥②(出穂期) 0.6 kg/a

栽培のポイント～播種時期・播種量～

○播種時期

11月上旬播種すると、10月中旬播種より**収量が多い**

【要因・効果】一穂稔実粒数と千粒重の増加、稈長が短い⇒倒伏を抑制

○播種量

播種時期が11月上旬の場合、標準播種量(1.0kg/a)と同程度の収量を確保したのは、**播種量0.6kg/a**

表 播種時期別の成熟期における生育と収量

注

播種時期	播種量 (kg/a)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 (0-500)	精子 実重 (kg/a)	一穂 稔実 粒数 (粒)	千粒 重 (g)	検査 等級
10月中旬	1.0	89.3	9.0	681	117	58.1	28.9	40.7	1下
	1.0	88.8	9.4	653	137	80.7	31.5	39.9	1下
11月上旬	0.8	86.1	9.5	621	156	79.5	32.9	39.8	1下
	0.6	85.8	9.5	615	97	82.0	33.0	40.9	1中

試験場所は、福島県農業総合センター本部(郡山市)。

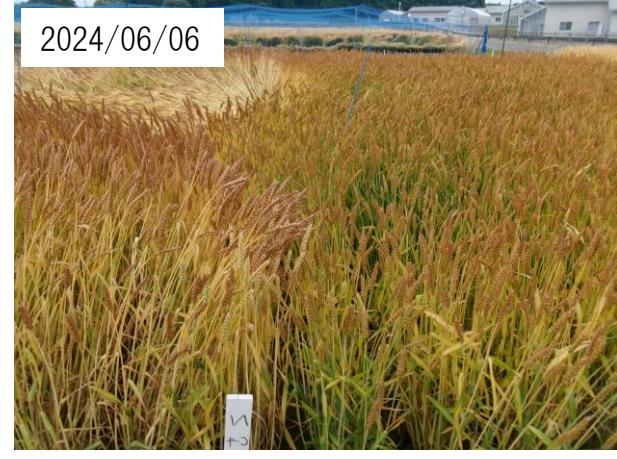
施肥量(kg/a) 基肥 硝酸カルシウム : リン酸カルシウム = 1.0 : 1.0 : 1.0

追肥 硝酸カルシウム : 0.3(幼穂形成期) + 0.6(出穂期)

注) 10月中旬は2022～2024年産、11月上旬は2024～2025年産の平均

栽培のポイント～生育状況～

※ 写真左：10月中旬0.6kg、
右：11月上旬1.0kg
(播種時期・播種量(/a))



10月中旬1.0kg

10月中旬0.8kg

10月中旬0.6kg

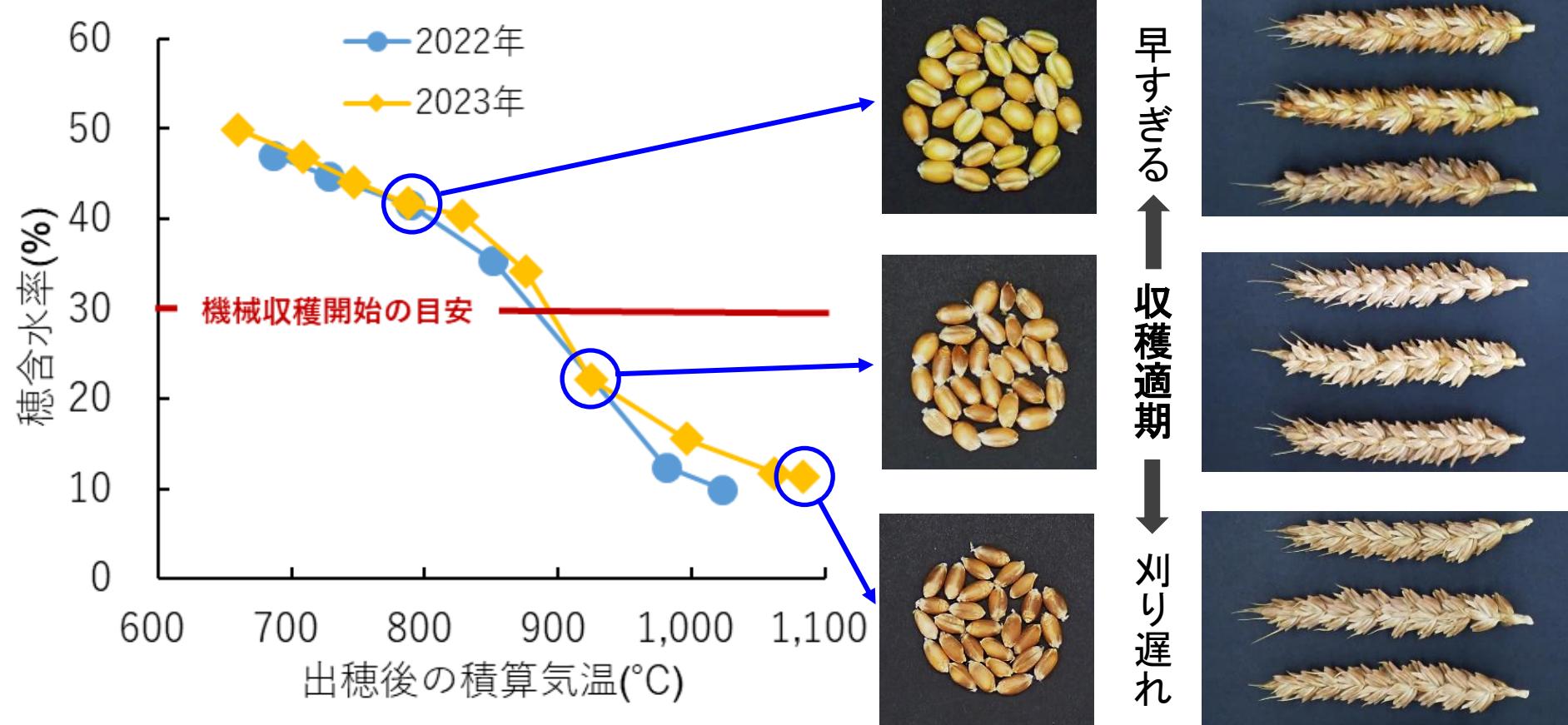
11月上旬1.0kg

11月上旬0.8kg

11月上旬0.6kg

栽培のポイント～収穫適期(積算気温との関係)～

出穂後の積算気温と穂含水率



- ◆ 出穂後の積算気温900°C程度が機械収穫開始の目安

栽培のポイント～収穫適期(外観の変化)～

早刈り、充実不足

出穂期+37日
成熟期-12日

出穂期+42日
成熟期-6日

出穂期+46日
成熟期-3日

出穂期+48日
成熟期-1日

収穫適期

出穂期+50日
成熟期+1日

出穂期+53日
成熟期+4日

刈遅れ

出穂期+57日
成熟期+8日

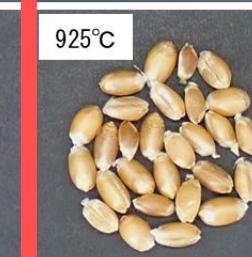


図 刈取日ごとの穂（上段）、子実（中段）、草姿（下段）の外観（収穫年次2024年、播種時期：11月上旬、播種量：1.0kg/a）

栽培のポイント～収穫適期(品質)～

刈取時期と乾燥後の子実の品質



子実が細く充実不足



子実が充実し品質が良い



子実が白濁し透明感がない



(参考)栽培のポイント～省力施肥栽培～

- ・基肥に緩効性肥料（商品名：LPコート40）、出穂期追肥に硫安の施用のみで、慣行施肥における幼穂形成期追肥を省略でき、収量は慣行施肥とほぼ同等

窒素成分 (kg/a)	基肥	追肥① (幼形期)	追肥② (出穂期)
慣行	1.0	0.3	0.6
省力施肥	1.3	—	0.6

(参考)栽培のポイント～省力施肥栽培～

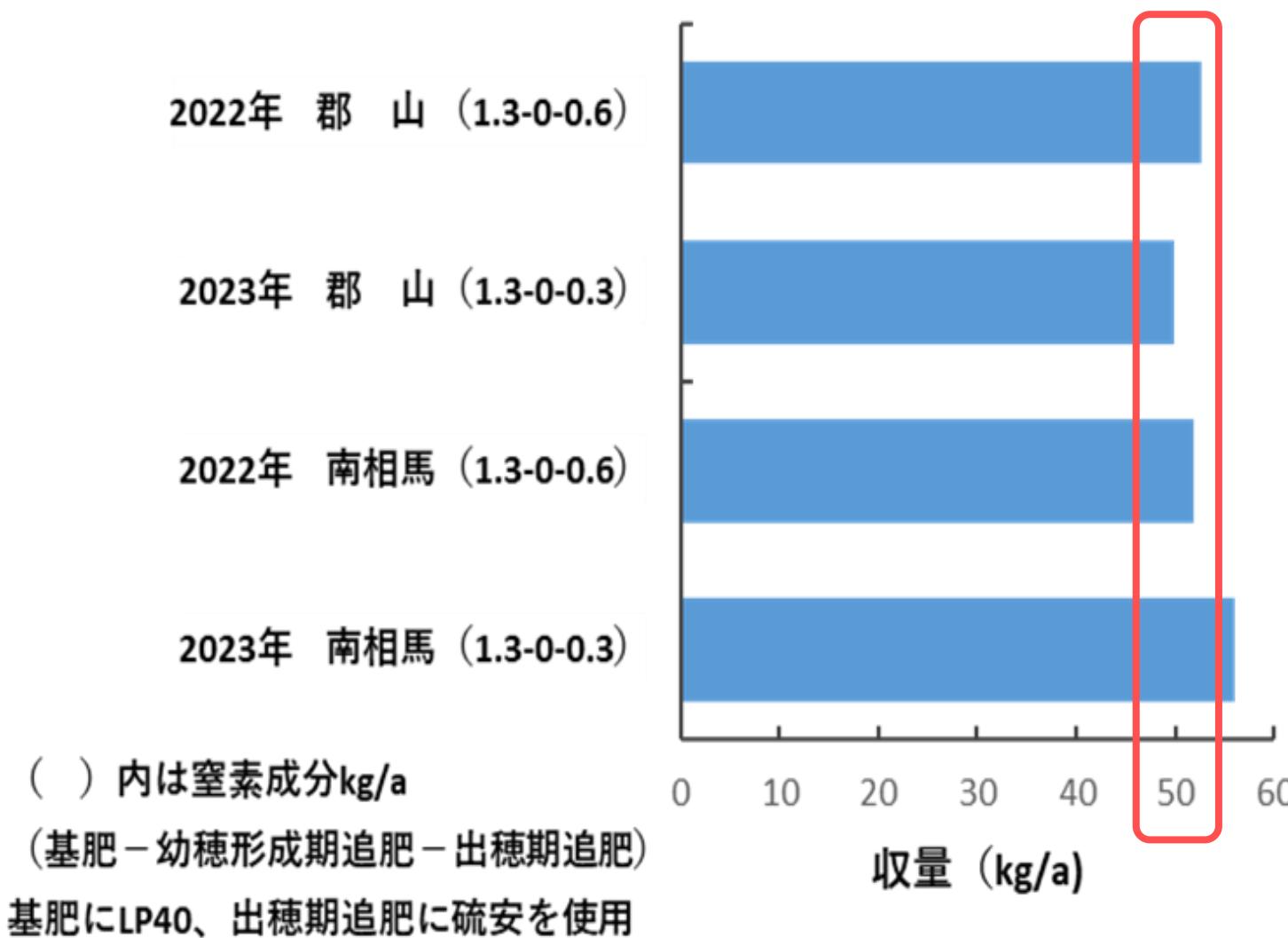


図 省力施肥体系による小麦品種「夏黄金」の収量

今後の予定～「夏黄金」栽培暦の作成について～

令和8年2月に成果情報として発表し、県HPに掲載予定
(播種時期・播種量・施肥体系・収穫適期の情報を盛り込んで)

福島県における小麦「夏黄金」の栽培法

(中通り地方)													
月	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育ステージ													
管理作業	ほ場準備 施肥	播種 土壤処理型除草剤散布	委熟め 1回目	麦踏み 2回目	追肥	赤かび病防除	収穫						
生育・作業	越冬期間中の生育状況	幼穂形成期の生育状況	出穂期の様子	成熟期の様子	早すぎる — 収穫適期 — 刈り遅れ	—	—						
生育量・収量の目安	目標収量 450~500kg/10a	稈長 80~90cm	穂長 8~9cm	穂数 500~550本/m ²	着粒数 25~30粒/穂	千粒重 38~42g	子実タンパク含量 12%以上	子実の硝子率 80%以上					
基本的な栽培法	◆播種法(ドリル播き) 渠間: 20~30cm 播種量: 6~8kg/10a	◆施肥量(10aあたり) 基肥: 硝酸10kg、リン酸10kg、カリ10kg 追肥(1回目): 硝酸3kg(幼穂形成期) 追肥(2回目): 硝酸6kg(出穂期)	◆土づくり(10aあたり) 石 灰: 80~100kg 堆 肥: 1.0~1.5t ようりん: 30~40kg(里ボク土の場合)	播種 「11月上旬播種することで、 10月中旬播種よりも 収量が30%以上高まる」 【要因・効果】 ・一穂当たり粒数と千粒重の増加 ・稈長が短くなり、倒伏を抑制 ①播種時期 10月中旬~11月上旬 (限界: 11月中旬) ②播種量 (10aあたり) 6~8kg	は場準備 ◎排水対策 ・は場周囲に排水溝(明きょ)を設置 ・は場内に弾丸暗きょを施工 ◎土壤改良 ・散布量自安: 石灰80~100kg/10a ・小麦の適性pHは5.5~6.5程度のため、 酸度調整が必要である	施肥体系 「出穂期追肥をしっかり行うことで、 子実タンパク質含有量を確保する」 ◎施肥量 (10aあたり) ・基肥: 10kg(窒素成分) ・追肥(幼穂形成期): 3kg(窒素成分) ・追肥(出穂期): 6kg(窒素成分) 【参考: 基肥に緩効性肥料を用いた場合】 ◎施肥量 (10aあたり) ・基肥(緩効性肥料): 13kg(窒素成分) ・追肥(出穂期): 6kg(窒素成分)	麦踏み 1回目: 分げつ始めの4葉期頃(12月頃) 2回目: 垂立立ち前(2月下旬頃まで) 越冬前の踏圧 — 耐寒性の強化 — 徒長の抑制 越冬後の踏圧 — 早朝の垂立防止	赤かび病防除 ◎防除回数 基本3回以上 ◎防除時期 1回目は開花期頃(出穂期の7~10日後) 2回目以降は、前回防除の7~10日後	収穫 ◎機械収穫開始の目安 出穂後の積算温度900°C、子実水分30% ※穂が概ね褐変し、穂首がやや弯曲する時期 ※子実に爪跡が少し残る程度の硬さ	乾燥・調製 ◎乾燥機への張り込み 子実水分30%以上の場合は、40°C以下の 低温で乾燥を開始し、子実水分が下がっ てきたら、送風温度を上げて乾燥させる ◎仕上げ子実水分: 12.5% ◎調製の節目: 2.5mm(推奨)			



「夏黄金」栽培暦イメージ図

本日のまとめ

- ◇播種時期・播種量
→ 播種時期は11月上旬、播種量は0.6kg/a
- ◇「夏黄金」の収穫適期
→ 出穂後の積算気温900°C程度が機械収穫開始の目安
- ◇(参考)省力施肥栽培
→ 基肥に緩効性肥料、出穂期追肥に硫安を施用
→ 幼穂形成期追肥を省略、収量は慣行施肥と同等

窒素成分 (kg/a)	基肥	追肥① (幼形期)	追肥② (出穂期)
慣行	1.0	0.3	0.6
省力施肥	1.3	—	0.6

【今後の予定】

- 栽培暦の作成・公開

ご清聴ありがとうございました